▲写真左から、コーディネーターの安東誠一氏、パネリストの渡辺剛氏、石川洋一氏、横川勝美氏、小倉隆夫氏、武田一俊氏。

第１分科会

「地場産業はいかにして生きのこるか」

地場産品を愛する運動を

飯塚家司リポーター

コーディネーターの安東誠一先生をはじめ、パネリストの皆さん、ほんとうにすばらしい意見を出してくれました。その中で、私が参加した「第一分科会」での中味について集約してみました。

製粉所経営の小倉さん……いつも産業興しの心を持って物事を見ていけば、大館にも金の卵がゴロゴロ落ちている、という話には一瞬驚きました。これはご自身でも生かした希土類精製工場の新設や、産業廃棄物処理工場を設置するなど、雇用の場の拡大と、市外から〝金〟を持ってくる努力をしていることには、一市民として心強い企業だと感じるしだいです。

農協の武田営農指導課長さん……減反政策による米生産額の減収分をカバーするため、転作作物に力を入れており、山の芋、秋冬ネギ、枝豆等、特産地化を一層進め、産地間競争に挑戦しているということでした。

秋田銀行の渡辺支店長さん……「商店街の再開発、活性化を急がねばならない。それには第三セクター方式の導入も考えられるが、最も重要なことは、自らが努力することであり、中核ビル、飲食店ゾーンの設置、駐車場の整備等、魅力ある商店街づくりを、『まちづくり』の観点にしては」という提言をしておられました。

金属事業団の横川支所長さん……「非鉄金属関係は、円高の進行等により厳しい状況の中にあるが、高品位の黒鉱を産出する県北地区は国際市場でも太刀打ちできる、日本でも数少ない有望地帯である」とのことで、日常接する機会のない話を聞くことができ大変実りの多い時間を過すことができました。

「産業」は基本的には、個々人または各企業に負うものであり、みんなで具体的な産業興しをしようとすれば、一定の段階まではいけますが、ある線を越えるとやりにくい面が出てきます。とはいっても、努力は続けなければなりません。何よりもみんなで地場産業が育つよう地元消費を高め、地場産品を愛する運動を継続的に展開するしかないような気がしました。私たち市民としては、産業祭、シンポジウム、物産展等各種催事を多く、しかも続けて実施していただき、知る機会、発言の機会を増やしてもらうことにより、郷土愛の心も育まれていくのではないかと感じました。

大館特産「山の芋」を粉末にして商売に生かしており、実践をともなった提言で、産業興しの心を教えられた気がしました。

花岡鉱業の石川常務さん……かつて二百五十億円近くあった大館の鉱石生産額も、六十二年度には六十億円程度まで落ち込むだろうとの話には、ただうなるだけでした。これは、大館市の一般会計規模が約百五十億円ですから、特別会計を合わせた額に相当します。極論を言えば、大館市がひとつ「なくなってしまった」ような、大変な衝撃なのですが、そんな状態の中で、大館に根ざした企業として地元に踏み止まる努力は、血のにじみ出るようなものと想像されます。今まで蓄積された鉱山技術を作物の特産地化を進めています。

山の芋や五十八年に国の指定産地となったネギ、それに国技館で行う大相撲の際に桟敷席へ出す枝豆など、産地間競争に打ち勝つために販路の拡大充実を図っています。

大館の鉱山は見通しがある

横川さん・現在は円高により、非鉄金属は厳しい状況ですが、大館の鉱山は高品位の黒鉱の産地ですので、まだ見通しがあります。

地元に根ざした企業に

石川さん・同和鉱業では、大館に二つの会社を設置しました。一つは希土類の精製工場、もう一つが産業廃棄物の処理工場です。産業廃棄物を大館に持ってくる、ということに抵抗がある方もいると思いますが、物を持ってくるということは〝金〟を持ってくるということにもなりますし、雇用の場の拡大にもつながります。このように、地元に根ざした企業となるよう努力を続けています。

一歩前に出よう

渡辺さん・新しいものを生むためには、自らの努力が必要であり、一歩前に出て物事を考えるべきです。

ちょっと言わせて

パネリストの皆さんの実践をもとにしたお話、ご提言を伺って、大館の地場産業に一条の光が見えた思いでした。

最近、女性型の企業が誘致されたことは大変喜ばしいことです。しかしその反面、工場の流れ作業の狭間に立ち、休む暇さえなく、公民館等で学習する人がめっきり少くなっています。この複雑な社会で生きていくには、金の追求とともに生涯教育も必要ですし、両立させるためにはいかにあるべきかを考えたいものです。

一条の光が見えた

高杉義勝リポーター

私が参加した「第一分科会」を、パネリストのお話を中心にリポートしてみました。

金の卵は目の前にある

小倉さん・私は製粉所を営んでいて、大館の山の芋も粉末にしています。ちょっとしたアイデアや工夫で特産物となる〝金の卵〟が、大館にはたくさんあるはずです。地域で何をすればよいかを、みんなで考えるべきです。

転作作物の特産地化

武田さん・大館市農協では、転作